

2023（令和5）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490800404	事業の開始年月日	平成29年12月1日
		指定年月日	平成29年12月1日
法人名	株式会社ソラスト		
事業所名	グループホーム ソラスト富岡		
所在地	(236-0046) 神奈川県横浜市金沢区富岡西6-43-31		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和5年12月27日	評価結果 市町村受理日	令和6年4月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者の健康管理において、医療との連携が的確、かつ迅速に行われており、令和4年度に関しては、すべての入居者様の入院日数は0日と、入院しなかった入居者様は居られませんでした。

また当ホームは日頃から外出活動に力を入れており、普段の散歩はもちろんドライブに出かけたり、近隣の包括支援センターの催し物見物や、町内会のお祭りに参加するなどして入居者様から喜ばれております。

新型コロナが5類に変更になったことに伴い、ボランティアさんや音楽療法士さんの訪問も再開し、ホーム内でのレク活動にも力を入れております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年1月24日	評価機関 評価決定日	令和6年3月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は京浜急行線「京急富岡」駅西口から商店街を富岡西公園方面へまっすぐ進み徒歩15分ほどまたは、京急「富岡」駅西口からバスに乗り約5分「富岡西四丁目」下車、徒歩1分の2階建ての建物です。定員9名の1ユニットのホームです。付近は閑静な大規模分譲住宅地で、近くには青果店やパン屋等があります。

<優れている点>

事業所は、「安心・安全・楽しい我が家、その人らしさを大切に、天気の良い日は外に出よう」を理念に掲げ、入居者一人ひとりの生活のペースを大切に支援に取り組んでいます。季節を問わず毎日、散歩の機会をつくり、外気に触れる事で、気分転換や足の筋力維持に努めています。毎月ケアプラザで開催している「せせらぎ音楽会」の演奏会の鑑賞や、近隣の公園のお花見など、外出の機会を設けています。毎週音楽レクリエーションを実施し、入居者は電子ピアノの伴奏に合わせて童謡や懐かしの歌謡曲を歌って楽しんでいます。災害対策の避難訓練では近隣住民の参加を得て、非常階段を使用した退避時のサポートの協力を得ています。

<工夫点>

入居者の嗜好に合わせ食材等の内容に配慮しています。食材業者を2社と契約することで、より利用者の好みの食事を選択し提供できるように工夫しています。敬老会での生け花セットを利用したフラワーアレンジメントやクリスマス会でのカードづくりなどを、入居者が家族と一緒に作業を楽しむ時間を作っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ソラスト富岡
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

記入者	外部評価項目	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	個性を尊重し、その人らしさを大切にする為、自由な雰囲気大切に、その方のペースを大切に、その上で安心・安全な生活を大切に。その上で外出活動も定期的に行い、生活の質を向上するよう心掛けている。	事業所の理念「安心・安全・楽しい我が家、その人らしさを大切に、天気の良い日は外に出よう」は創業時に職員で話し合い決めています。事業所は、入居者一人ひとりのペースを大切に支援しています。散歩にも積極的に取り組み外気に触れる機会を大切にしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	定期的にボランティアさん等の受け入れを行っており、日常的に近隣の公園を散歩したり、近隣の八百屋等で買い物を行ったり、地域包括支援センターで行われる催し物や地域のお祭り等に積極的に参加することにより関わりを持つように心掛けている。	富岡西町内会に加入し地域の「秋の集い（祭り）」等の行事に参加しています。管理者はこれまでに自治会班長も勤め、防災ボランティア活動にも参加しています。入居者も地域活動に参加して来ましたが、コロナ禍のため諸活動が中止となり参加が出来ていません。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議で地域包括支援さんと近隣で発生してしまった虐待事例などの情報交換を行い、虐待防止のための方法等を検討したり、道迷い等の事故防止対策、予防のための情報交換を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ホームでの事故や支援方法についての意見や対応策を伺い検討したり、また身体拘束適正化委員会、及び虐待防止委員会を開催し話し合いを行い日々のケアに活かしている。また地域イベントの情報を提供して頂いており、参加できるものがあれば入居者様に参加して頂いている。	今年度は対面で会議を実施し、隔月開催を継続して来ました。地域包括支援センター職員や訪問看護師の参加を得て実施しています。虐待防止委員会等も開催し、話し合いの中で看護師から虐待防止に向けた入居者支援の方法などアドバイスを頂いています。	運営推進会議のメンバーには、利用者家族や地域代表、民生委員等の参加が得られるよう、取り組みの強化が期待されます。参加者の都合に合わせた日程の調整など、柔軟な運営が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	区の高齢障害支援課さんには空室情報や困難事例等の相談を受けて頂いております。また区で開催する感染症指導者研修には必ず参加して感染症についての情報提供等も受けております。生活支援課さんからは、当ホームの生保の方についての相談を受けて頂いたり、新規入居相談等を受けたりと、頻りに情報の交換を行っています。	金沢区生活支援課の担当者とは生活保護受給者の関連で相談し連携しています。また、入居希望者についての相談等も受けています。区の高齢障害支援課とは介護保険の認定更新等で良い関係を築いています。金沢区グループホーム連絡会に参加して情報交換して来ましたが、今年度は開催が中止されています。	

記入者	自己評価	外部評価項目	項 目	自己評価	外部評価	
				実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5		○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	年に1回以上は身体拘束の適正化に関する研修を行っている。研修に参加できなかったスタッフは、議事録等で確認しその内容に関して共有を図っている。また、株式会社ソラストで設けているソラスクールという研修システムがあり、自己学習する環境を整えている。	管理者は身体拘束をしないケアに取り組み、職員に対する研修会は毎年1回以上実施し不適切なケアに対する理解度を深めています。「身体拘束適正化委員会」は隔月に運営推進会議内で実施し、管理者と主任が委員として参加し、外部の意見も聞いています。職員に対しては議事録の閲覧を通じて会議内容を周知しています。	
7	6		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止に関する研修は年に3回以上義務付けられており、ソラスクールを用いた事例検討会を年に2回、座学による研修を年に1回以上行っている。それにより虐待防止に関する情報の共有を図っている。	年に3回運営推進会議の中で虐待を検討する委員会を開催し、ホーム利用者の支援困難事例をもとに参加者の意見を聞いています。職員は3ヶ月ごとに「振り返りノート」でスピーチロック等自身の行動を振り返り管理者と話し合うと共に、法人の「アンガーマネジメント研修」を受講し虐待防止に努めています。	
8			○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する研修は毎年行っているが、現場においてはその制度を意識するような場面に遭遇することが少ないためか、詳細を理解しているスタッフは少ない状況。		
9			○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約後のトラブルを避けるため、契約書類は、事前に契約予定者に送付し、内容を確認して頂くようお願いをしている。契約内容に不明点があれば、すぐに電話等で連絡を頂き、ご説明するよう努めている。また契約時においても、繰り返し不明な点がないかお尋ねし、確認するよう心掛けている。		
10	7		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月、入居者様ごとに写真入りの報告書を送付し、普段のご様子をお伝えしている。その上でご家族等からご相談があった場合、すぐに対応し受け入れられる要望等あった場合、迅速に運営やケアに反映させるよう心掛けている。	コロナ禍中も感染を懸念し、家族との面会は玄関で対面で実施してきました。面会時に家族が入居者の好きな食べ物などを持参するケースがありますが、居室内での飲食は事故防止の為禁止し、リビングでの飲食は可能として持参してもらっています。	

記入者	外部評価項目	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者はスタッフ面談やスタッフミーティングの場において、その機会を設け、反映させるよう努めている。	毎月スタッフミーティングを実施し、行事や利用者介護での課題事項について職員の意見から話し合い、運営に反映しています。敬老会やクリスマス会などのイベントは、交代で担当職員2名が自由に内容を企画しアイデアを活かして実施しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	夜勤手当等の就業条件変更があった場合、代表者の代理がホームまで足を運び、該当するスタッフと一人一人面談を行い、就業条件の変更内容の説明し、話し合い、モチベーションの低下に繋がらないよう労働環境の整備に努めている。	管理者は働きやすい職場環境づくりに取り組み、多くの職員は残業が殆どありませんが、恒常的な職員不足が続いています。新規職員の採用は今後、介護資格保有者に限定されたため、現在は応募者が減り新規採用が困難な状況となり課題としています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ホーム内で必須研修を受けることは勿論のこと、ソラスクールという自己学習ツールを用い、自分のスマホやパソコンで介護に関わる様々な研修を何時でも受講することができる。	事業所では年間の研修計画を作成し、職員が交代で講師となり、「認知症の基本的な理解」や「利用者の尊厳とプライバシー保護」等、実践的な研修を実施しています。法人はリモート自己研修システムを整備し、必修項目をはじめ多岐にわたる研修内容を揃えています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	金沢区内のGHとは空室情報、および入居希望者情報等をメールでやり取りし情報交換を行っている。同じ法人内でのGHでは常に相互で運営に関しての相談・情報交換等を行い、問題解決を図り質の向上に繋げるよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアマネのインテークとアセスメント情報を用い、入居前にケア会議を行い、それに基づきサービスを開始するが、その中で事前に聞き出すことが出来なかった情報の確認を行ったり、不足するサービスがあれば、それを実践できるよう、臨機応変に対応するよう心掛ける。		

記入者	自己評価	外部評価項目	項目	自己評価		外部評価	
				実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族との面談時、何気ない会話を盛り込みながらコミュニケーションをとったりと、話しやすい雰囲気作りを行うことで、ご家族の不安や困っていること、要望などを引き出せるような関係作りに努めている。			
17			○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	インテークの段階でご家族の実情と要望を把握したうえで、グループホームだけにとらわれず、今どのような支援が適切なのか見極め、その方にあった支援を提案し対応するよう努めている。			
18			○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事の一部、食器洗いや洗濯物たたみ等は職員だけで行わず、入居者様と一緒にしている。またその際はスタッフからお願いし、お手伝いをお願いする場合も、入居者様から申し出られる場合もあり、お互い協力しあうといった関係が築かれている。			
19			○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	敬老会やクリスマス会等のイベントにはご家族に参加して頂き、その際、意見交換等行うよう努めている。そこで確認されたご意向や、ご本人に対する思いなどを参考にしながら、ご家族とご本人の関係性を考えながらケアにつなげていくよう努めている。			
20	11		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍であっても工夫を凝らしてご家族との面会を実施し、コロナが5類に変更になったからは面会を通常通りに実施、敬老会、クリスマス会への招待の再開、またご本人が以前暮らしていた場所に訪問したり、入居前に通院していた病院受診の支援など行っている。	横浜市のエリアは広域の為、入居者が入居前に住んでいた場所が近隣ではないケースが多くなっていますが、かつての住まいを見に行くことで利用者が安心できるように支援をしています。今年度は敬老会やクリスマス会には家族も招待し、久々に家族と一緒に過ごせる機会を作っています。		

記入者	自己評価	外部評価項目	項 目	自己評価		外部評価	
				実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲の良い入居者は一緒にテーブルで過ごして頂くよう工夫したり、音楽レクでは先生を囲むようにテーブルを配置し、皆が同じように参加し楽しめるよう心掛けている。また入居者同士でのトラブルが発生した場合は個別にお話を聞くよう心掛けている。			
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	当ホームを退居された方は、亡くなられ契約が終了になられた方ばかりなので、葬儀が済まされてからはご家族と連絡を行うことは殆どありません。ただ、その後ご相談等あった場合はきちんと対応し支援させていただきます。			
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	12		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者とのコミュニケーションから、ご本人の何気ない言葉や表情を大切に、どのように過ごしたいのか、何を楽しみとしているのか、趣味や関心ごとにより可能な限り浴えるよう、本人が落ち着いて生活していける環境作りを工夫している。	入居者の仕草を注視し、何を考えているのか、何に興味があるか、把握しています。好きだったパズル・将棋・カラオケなど年を重ねると上手く出来なくなり、不安からイライラする時もあり、声掛けや、一人で落ち着くことができる場所など、その人に合った環境を整えています。		
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	インタビューやご家族からの情報をもとに、生活歴や好きなこと、楽しみを把握し、出来る限りこれまでの生活に近づけるよう、お一人お一人の希望に沿い、日々の生活に行かせるようにしている。			
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	今現在のご本人の出来ることを見極めできる限りその力を発揮出来るようなケアに努めている。娯楽を楽しまれる方、役割を持つことで生きがいを感じる方、一人の時間を大切にする方、テレビや読書を楽しまれる方などスタッフが過度に干渉することなく、その人らしく生活できるよう過ごして頂くよう努めている。			

自己評価 記入者	外部評価項目	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人の希望や普段の様子から照らし合わせ、ご家族、医療関係者、当ホームスタッフからの様々な意見や発案を検討し、現在の健康状態を踏まえたうえで実現可能な介護計画を作成している。	個々の介護記録、申し送りノートを基に、ケア会議にて職員は意見を出し合います。入居者がより良く暮らす為に、アセスメントを行いケアプランの見直しをしています。毎月のお便りに心身の様子・医療面や具体的なケアの内容を詳しく家族に報告しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の介護記録をパソコンの介護ソフトに入力し、スタッフならだれでも閲覧出来るようにし、その情報を得ることにより、情報の共有を図っている。またケアや服薬の変更があった場合、申し送りノートにその情報を記載しスタッフ全員が確認し共有できるようにしている。また、その情報をもとにケア会議等でケア内容の検討を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者やご家族のニーズに応じて、通院介助を行ったり、衣類が欲しいとの要望があれば、ご家族と相談し、ご家族と一緒に衣類等購入しに出かけたり、また雑誌を読みたいとの要望があれば、定期購読を契約したりと、対応可能なものであれば出来るだけ要望に応えられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	将棋ボランティアさんや音楽療法士さんに定期的な来所、近隣の八百屋さんへの買い物、地域包括支援センターの催し物、町内会のお祭り等に積極的に参加している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所と契約している訪問診療医だけではなく入居前にかかりつけにしていた病院、または訪問診療医に相談し、別の診療科への受診が必要な場合は、紹介状を書いてもらい受診できるよう支援している。	事業所の提携医療機関をかかりつけ医にしています。週1回の訪問看護師によるきめ細かい健康状態の観察により変化を見落とす事無く、医療面からのサポートを受けています。必要に応じて、泌尿器科、眼科の受診を行っています。	

記入者	外部評価項目	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	契約している訪問看護事業所とは24時間の連絡体制が整っている。週1回の訪問で日頃の情報や気づきを報告し、相談援助を受けている。入居者に異常等が見られるときは直ぐに連絡し具体的な指示を受けるとともに医師への連絡調整も対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はアセスメント情報、支援方法、飲み薬等に医療情報を提供し、入院後の情報も共有するよう心掛けている。退院時は看護サマリー等の情提供を受け、またホームで対応可能なことを明確化し可能であればそれに応じた退院後のケア内容を構築し、スムーズにホームでの生活が送れるよう努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期ケアは入居時にご家族にホームではどこまでできるか説明を行っている。実際その時が来たときは、ご本人、ご家族の思いを大切に介護職員、医療機関、家族と連携を図り、終末期ケアにつなげている。終末期ケアの研修及び勉強会は定期的実施している。	入居時の看取りの希望を変更することも当たり前のこととして確認をし直します。終末期の家族の揺れ動く気持ちを受け止めています。可能性を求めて、病院に移ることもあります。家族の心情や不安な気持ちを汲み、その都度状況や意向を話し合い、安心して最期が迎えられるように努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応やAEDの使用方法等、初期対応や状況の見極めが出来るよう定期的に研修を実施している。事故発生時は救急要請、様子観察等を的確に判断し対応し、速やかにご家族に報告、説明を行っている。また事故報告書をもとにスタッフ間で話し合い事故原因、今後の対応策など検討し事故防止につなげるよう努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	様々な災害や発生時刻を想定して入居者とともに避難訓練を行っています。コロナ前は地域住民の方の協力を得て夜間対応避難訓練を行っていましたが、現在は感染対策としてスタッフのみで行っているのが現状です。非常食や備品のチェックは常に行っております。	リビングの取りやすい位置に防災用ヘルメットを設置し、災害に備えています。居室のある2階の非常口から、地上に降りる避難用外階段を設置しています。管理者は地域の災害サポーターになり、地域の災害時支援に備えています。	現在、1階と2階居室間の移動は、エレベーターを利用していますが、緊急事態時は室内階段の利用も必要とされます。階段にある荷物を整理されることが期待されます。

自己評価 記入者	外部評価項目	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に年長者、人生の先輩として敬意を払い、個々の人格、生活歴を考慮してさりげない言葉かけやタイミングを見ての対応に配慮するよう努めている。	トイレ介助の際は、ドアを閉めることを徹底しています。入居者の性格や理解力に応じ、しっかり伝わるよう、言葉を選んで声掛けしています。フロアで入居者のケアについて職員間で話す時には、個人が特定されないように部屋番号を使用しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者と日々過ごしながら個々の希望、関心、好みを把握し、場面によって本人が自己決定、選択しやすい声かけ、働きかけをするよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者一人一人のペースを大切にし、その方に合った生活リズムで過ごして頂くよう心掛けている。入居者それぞれのペースやタイミングが異なる為、各入居者それぞれの希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	清潔さに心掛け、その方に合った身だしなみになるよう支援している。服装はご自身で選べる方はご本人に選んで頂き、そうでない方は声掛けをしながら様子を見てご本人らしさを表現できるような身だしなみになるよう支援するよう努めている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	片付けや洗い物等の作業を通じて、本人の自身、喜び、心の安定を維持し前向きになって頂くような支援を心掛けております。また、月に2、3会はお弁当等で食事を楽しむ機会を作っております。	食材は2ヶ所の業者と契約して、両方の献立を見ながら、利用者の好きなメニューを選び、食事が豊かになるように配慮しています。誰にも干渉されずに、ゆっくり食べたいという希望から、それぞれ距離をおいて食事が出来るよう、テーブルの配置に工夫しています。	

自己評価 記入者	外部評価項目	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者様のその日、その時の体調を確認しながら食べやすい形態になるよう調理したり、嚥下が悪化している方、水分をあまり摂って頂けない方などに対しても様々に工夫し摂って頂けるよう支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアは、ご自分で出来る方は声掛け、見守りで、ご自分で出来な方はスポンジブラシ等を使用し介助を行い支援をしています。入れ歯の洗浄も出来る方はご自身で行って頂いております。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	各入居者の排泄のタイミング、習慣、時間などに応じ、原則トイレで排泄して頂けるよう支援しております。立位が取れない方でも日中はスタッフ2人がかりで排泄介助を行い、自尊心に配慮するよう努めております。	大声出し、周りを見渡すなど、非言語の排泄のサインも察知し介助することにより、トイレで排泄できるよう支援しています。夜間、多量の尿失禁の入居者に、声掛けしトイレ介助することで、立位での排尿・陰部の痒みの改善など清潔を保つことが出来た事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	普段の食事にヨーグルトや大根おろしを必ずお付けし、排泄を促すための工夫を行っております。また水分摂取量を確認し、水分の補給も徹底するよう努めております。体操も毎日行い、腸の働きを良くするよう努めております。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	適切な声掛けを心掛け、入浴の順番を工夫するなどして入居者の気持ちに沿った支援を心掛けています。ゆっくりと入って居たい方は順番を後にするなどして適宜調整を行っている。また入浴剤を使用し、温泉気分を味わって頂くよう努めている。	「風呂が面倒くさい」と気が進まない入居者には、「薬を塗りましょう」「足の浮腫みを見せてください」など、「お風呂」という言葉を使わない工夫をして浴室に誘導しています。同性介助の希望を受け入れています。入浴後には、大好きなノンアルコールビールを楽しみにしている入居者もいます。	

自己評価 記入者	外部評価項目	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者それぞれの体力、体調に合わせ就寝時間を調整している。また居室内の温度管理も徹底し、寒くもならず暑くもならないよう努め、安眠につなげている。また、入居者によってはお昼寝や日中居室での休息をとって頂くよう促しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	スタッフ全員が処方内容、用法、副作用を把握できるよう服薬表を個別でファイリングしている。服薬時はスタッフ2人でダブルチェックを行い、服薬後はきちんと飲み込めたかの確認も行っている。体調に変化があれば医師、看護師に報告し適切な服薬支援が行えるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事が得意な入居者には家事仕事を頼みし、その都度感謝の言葉を伝えることでやりがいを持って頂くよう努めている。散歩や、将棋などの趣味の支援やノンアルコールビールの提供など、日常的に行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩の際、入居者の行きたいところなど確認しながら散歩するよう努めている。またドライブやコンサート鑑賞など積極的に出かけ普段体験できないような場所にお連れし、楽しんで頂くよう支援している。	季節を問わず毎日、散歩の機会をつくり、外気に触れる事で、気分転換や足の筋力維持に努めています。毎月ケアプラザで開催している「せせらぎ音楽会」のフルート、オカリナなどの演奏や、近隣の公園のお花見、海沿いの散歩など、外出の機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族に相談し、ご本人が管理できる範囲の厳禁であれば、所持、使用の援助を行い、ご本人の満足度につなげるよう努めている。		

自己評価 記入者	外部評価項目	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族への電話等の連絡は、要望があればいつでも対応するよう心掛けている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室内は常に温度湿度管理を行い、過ごしやすい室内環境になるよう適宜調整を行っている。またリビングでは季節感が感じられるような装飾を行い、入居者に季節が感じられるよう工夫している。	入居者も食後の手伝いをしています。リビングでは、懐かしい歌謡曲を流したり、カラオケや歌うことが好きな入居者が多く、音楽療法の時間を設けています。楽しい気持ちになってもらう事で心の安定になるようにしています。入居者それぞれが一番落ち着くように配席にも工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自室で過ごしたい方は自室で、リビングで過ごしたい方はリビングでとマイペースで過ごされている。入居者の席もその時の状況に応じて柔軟に変更している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	原則入居者ご自身やご家族に居室内のレイアウトを実施頂き、過ごしやすい環境を整えて頂くようお願いをしている。また、なじみの物などお気に入りの物等持って来ていただき、居心地よく居室で過ごして頂けるよう工夫している。	今まで暮らしていた自宅を引きはらい入居した人は、大切な仏壇や主人の遺影を置いています。入居前と同じように好みの週刊誌を定期購読している人もいます。若い頃に撮った沢山の写真など持参しています。部屋の掃除やシーツ交換など、出来る所は、職員と一緒にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご本人の居室がどこだかわからなくなってしまふ方などは大きくご自身の名前を書いた紙等を貼って頂いたり、またトイレにも大きな紙にトイレと書かれた紙を貼るなどして、居室やトイレを間違えたり混乱することの内容工夫し、ご自分で行けるよう工夫している。		

2023年度

事業所名 ソラスト富岡
作成日：R6年 4月 15日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	地域民生委員さん及びご家族の参加が見られない。コロナ禍における参加人員を制限した状態のまま今日に至ってしまっている。	地域民生委員さん、およびご家族に参加して頂く。	ご家族には直接お話し、参加して頂くようお願いを継続して行う。新しい民生委員さんがようやく決まったので、毎回ご参加をお願いする。	2ヶ月
2	35	倉庫などに入りきらなくなった保存水等災害時に必要な物品の収納場所として階段を使用していた。上り下りが出来る空間は確保していたが、すれ違いが出来ない等で危険と判断。	階段に置かれている保存水等の災害時物販の収納場所の確保。	新しく倉庫を設置する。	2ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月